

平成29年度 第2回 二宮町下水道運営審議会 次第

日 時 平成30年2月14日（水）

午前10時00分～

場 所 二宮町役場庁舎2階 第1会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

（1）二宮町下水道事業の経営状況等について

（2）その他

4 閉 会

配布資料

資料1 下水道事業特別会計 歳入歳出決算額推移

資料2 下水道事業における歳入の主な充当先

資料3 下水道使用料について

資料4 下水道使用料対象経費について

参考 用語解説

二宮町下水道運営審議会委員名簿

平成30年2月現在

No	氏名	地区	備考	任期
1	野地 洋正	—	町議会議員	平成30年3月31日
2	宮林 正彦	—	学識経験者（県企業庁平塚水道営業所長）	平成30年3月31日
3	海野 淳	—	学識経験者（県下水道公社業務部長）	平成30年3月31日
4	大田 博樹	—	学識経験者（神奈川大学経営学部准教授）	平成30年3月31日
5	松尾 武保	富士見が丘	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
6	添田 米美	元町北	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
7	村田 耕一郎	越地	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
8	土谷 美智代	元町南	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
9	山下 真理子	中里	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
10	永井 和美	富士見が丘	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日
11	原 美耶	山西	排水設備設置義務者及び使用者	平成30年3月31日

※順不同

資料 1

下水道事業特別会計 歳入歳出決算額推移

【歳入】

(単位:円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
分担金及び負担金	34,924,020	13,244,874	15,673,970	13,289,820	11,347,920
分担金	-	641,250	777,900	3,018,920	2,527,700
負担金	34,924,020	12,603,624	14,896,070	10,270,900	8,820,220
使用料及び手数料	216,512,659	232,239,606	235,212,172	238,248,078	263,596,188
使用料	216,171,659	231,767,606	234,303,172	237,775,078	263,046,188
手数料	341,000	472,000	909,000	473,000	550,000
国庫支出金	70,700,000	95,800,000	114,000,000	98,000,000	105,000,000
繰入金	343,038,000	365,628,000	379,821,000	411,428,000	386,646,000
繰越金	17,707,029	19,123,460	14,833,975	15,143,726	4,480,121
諸収入	0	6,278,200	2,811,898	0	991,000
町債	152,400,000	176,500,000	219,200,000	184,100,000	168,500,000
歳入計	835,281,708	908,814,140	981,553,015	960,209,624	940,561,229

使用料3,800,000
明許分含む

【歳出】

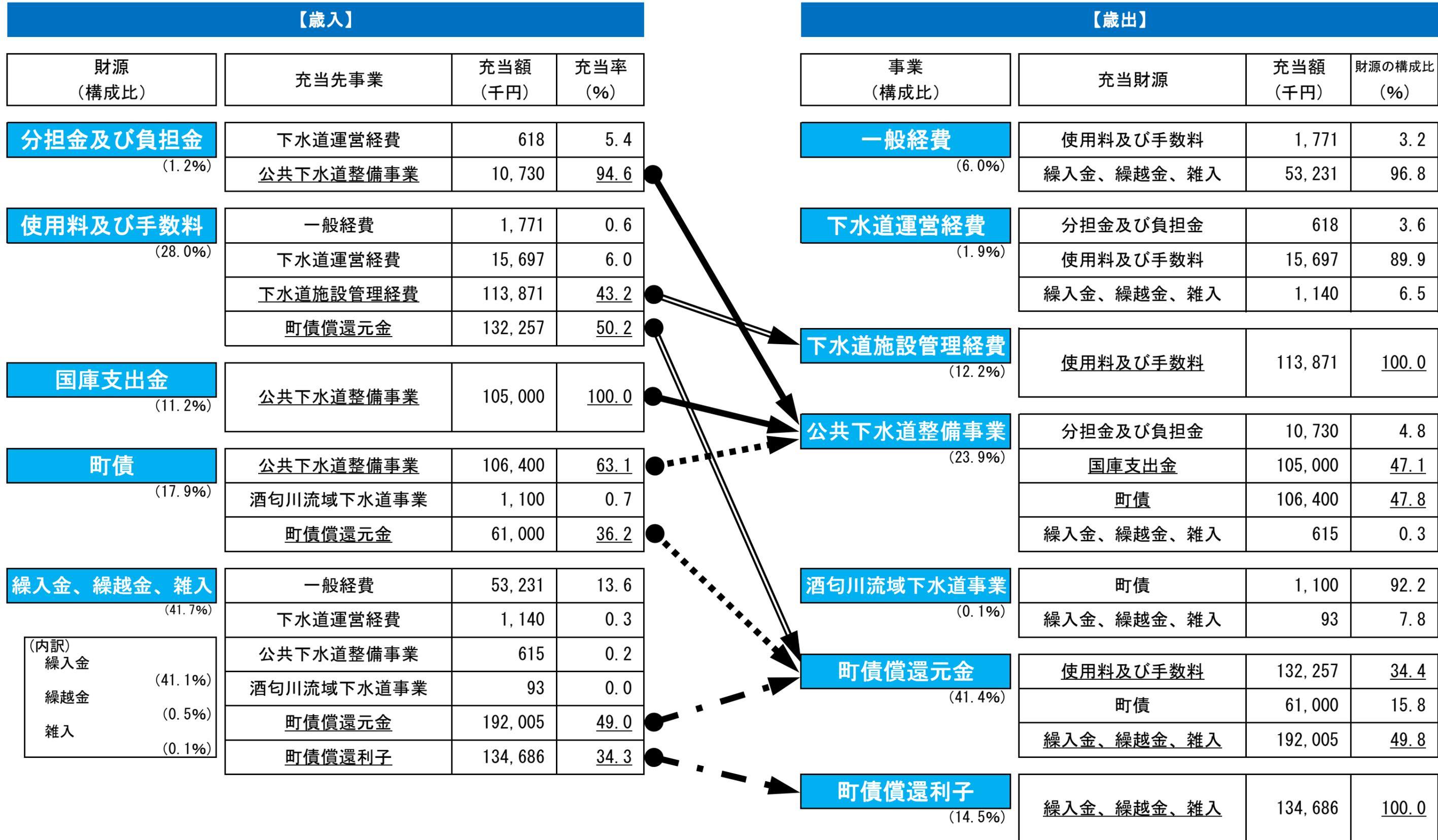
(単位:円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
下水道総務費	173,078,526	182,132,361	181,987,085	199,043,060	186,327,821
一般経費	56,010,815	56,349,582	55,832,995	57,323,788	55,002,365
運営経費	20,480,286	20,155,759	17,614,100	18,204,530	17,454,702
繰出金	-	-	-	143,000	0
施設管理経費	96,587,425	105,627,020	108,539,990	123,371,742	113,870,754
事業費	186,923,349	235,430,548	289,740,164	245,624,144	223,938,341
公共事業費	178,840,349	235,136,548	289,275,164	240,296,144	222,745,341
流域事業費	8,083,000	294,000	465,000	5,328,000	1,193,000
公債費	456,156,373	476,417,256	494,682,040	507,262,299	519,948,463
元金	292,838,832	319,474,137	344,217,459	363,796,758	385,262,370
利子	163,317,541	156,943,119	150,464,581	143,465,541	134,686,093
予備費	0	0	0	0	0
歳出計	816,158,248	893,980,165	966,409,289	951,929,503	930,214,625

下水道事業における歳入の主な充当先

※ 構成比は、平成28年度決算に基づいて算定

資料 2



下水道使用料について

下水道使用料は、原則、上水道の使用水量を下水道への排水量とみなし、条例で定める算定方法により算定した額を、2か月に一度「上下水道料金一括納付制度」により水道料金と一括で水道局が収納したのち、下水道使用料分が水道局から町へ収納されます。

この数年、世帯当たりの使用水量は洗濯機など節水型の機器の普及や節水意識の向上により、減少傾向にあります。

下水道使用料の使い道

町の下水道事業は、法律で「公営企業」に位置付けられているため、「汚水処理費」はその下水道使用料収入で賄わなければならない独立採算による運営が原則とされています。

下水道使用料は、「下水管や処理場を管理するための費用」と、「下水管などを整備するために借りた資金の返済（これらを「汚水処理費」と呼んでいます。）」に使われています。

下水道使用料対象経費について

◎下水道使用料対象経費

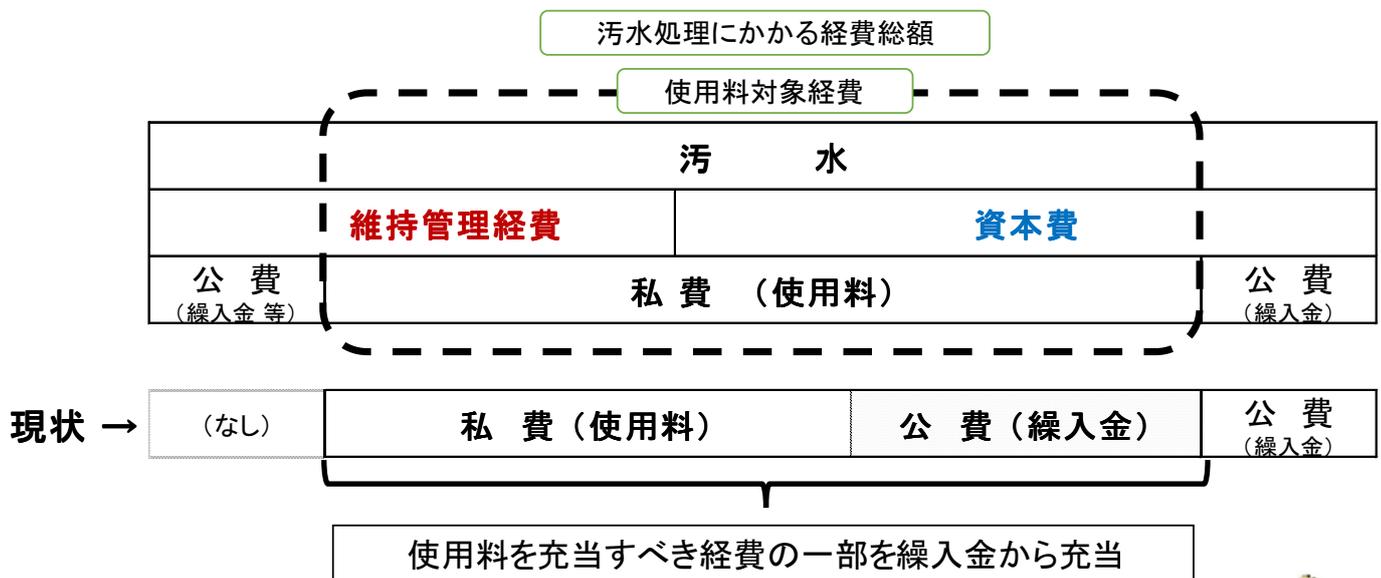
雨水公費、汚水私費の負担区分

雨水の処理は公費（税金）で賄い、汚水処理は私費（使用者による使用料負担）で賄うことを原則としています。（雨水公費、汚水私費の原則）

ただし、下水道の公共的役割を鑑み、汚水費用のうち、一定のものが公費負担となります。（繰出基準）

下水道使用料対象経費は、公費で負担すべきものを除いた「維持管理経費」と「資本費（元利償還金）」が対象となります。

現在の下水道事業の運営状況は、人口減少による使用料収入の減少や施設の維持管理費の増大に伴い、処理費用に対する使用料収入の割合が低い状態となっています。その不足分は一般会計（税金など）からの繰入金で補って運営しています。



部分が、受益者負担の原則に基づく、理論上の使用料対象経費



下水道使用料対象経費について

年間有収水量・使用料収入の推移

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
年間有収水量(千 m^3) ①	1,746	1,772	1,752	1,777	1,790
使用料収入(税込)(千円) ②	216,172	231,768	234,303	237,775	259,246

汚水処理費の推移(地方公営企業決算状況調査の各年度の抜粋)

(税込・単位:千円)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
汚水処理費(使用料対象経費)	維持管理費	直接的経費	管渠費 ③	12,247	10,028	9,635	8,616	10,845
		ポンプ場費 ④	0	0	0	0	0	
		処理場費 ⑤	0	0	0	0	0	
	間接的経費	業務費 ⑥	45,481	44,356	42,094	39,143	39,884	
		流域下水道維持管理負担金 ⑦	86,145	95,336	99,768	116,295	103,303	
	小計 ⑧	143,873	149,720	151,497	164,054	154,032		
	資本費	減価償却費 ⑨	0	0	0	0	0	
		地方債元金償還費 ⑩	179,121	176,560	169,870	158,096	171,704	
		地方債利子償還費 ⑪	10,413	9,886	9,348	8,800	8,241	
	小計 ⑫	189,534	186,446	179,218	166,896	179,945		
合計 ⑬	333,407	336,166	330,715	330,950	333,977			

使用料収入と汚水処理費の差引

(単位:千円)

使用料収入 - 汚水処理費 : ②-⑬	Δ 117,235	Δ 104,398	Δ 96,412	Δ 93,175	Δ 74,731
---------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------

使用料単価・汚水処理原価・経費回収率の推移

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
使用料単価 (円/ m^3): ②/① ⑭	123.8	130.8	133.7	133.8	144.8
汚水処理原価 (円/ m^3): ⑬/① ⑮	191.0	189.7	188.8	186.2	186.6
経費回収率 (%): ⑭/⑮ * 100 ⑯	64.8	68.9	70.8	71.8	77.6

※ 「今後の下水道財政の在り方に関する研究会」報告書において、現在の使用料単価では汚水処理原価を回収できない事業にあつては、他公共料金に鑑み20 m^3 /月あたり3,000円(使用料単価150円/ m^3)の水準に引き上げることと示されている。

【平成18年3月 総務省自治財政局地域企業経営企画室】

平成28年度の経費回収率は、使用料収入で汚水処理費のうち維持管理費を100%、資本費の58%を賄えたことにより77.6%となりました。

経費回収率は年々向上していますが、資本費のうち74,731千円は、依然として一般会計繰入金により補っているのが現状です。

用語解説

【歳入】

分担金及び負担金

公共下水道の整備がされた地域の土地は、整備前と比べて資産価値が上がると考えられる。また、公共下水道は生活排水をより衛生的に処理できることから、未整備の地域と比べて快適な生活環境となる。このようなメリットが土地の所有者に発生するため、下水道整備が整備される地域の土地の所有者等に対し、整備費用の一部として負担していただく受益者負担の考えに基づいている。

上記の通り、主に整備費用の財源とするため、下水道運営経費と公共下水道整備事業に充当される。

使用料及び手数料

使用料は公共下水道の利用者から支払われた下水道使用料による収入で、公共下水道に接続している家庭や事業所等の利用者から、汚水処理の対価として公共下水道管理者（二宮町）が賦課、徴収するもの。金額は公共下水道に排出された汚水の量に応じて、条例に基づき算出する。

手数料は、二宮町で下水道の接続工事を行うために必要な資格である、排水設備指定工事店及び在籍する責任技術者の登録及び更新に際して徴収するもの。

これらの収入は、事業の運営や施設の維持管理等の経費を賄う財源として、一般経費、下水道運営経費、下水道施設管理経費、町債償還元金に充当される。

国庫支出金

下水道整備の財源として国から交付される補助金。公共下水道整備事業に全額が充当される。

繰入金

下水道事業の財源として、一般会計の税収入等から融通された資金。

繰越金

前年度の歳入合計と歳出合計の差引により発生するもの。

町債

事業の実施や運営に際し、必要な財源を確保するために外部から借り入れた資金。

資金の償還（返済）は借り入れの際に定められた年数で、分割して行う。

借り入れに際しては、資金の使用目的や金額、借り入れ先等について、都道府県知事と協議し、同意を受ける必要がある。

平成 28 年度は、公共下水道整備事業、酒匂川流域下水道事業、及び町債償還元金の財源に充当するために借り入れた。

【歳出】

一般経費

職員の給与や諸手当など、主に人件費に係る支出。

下水道運営経費

受益者分担金及び受益者負担金の賦課徴収に係る経費、上下水道料金一括納付制度に係る委託料、消費税など、事業の運営に係る事務的経費。

下水道施設管理経費

マンホールポンプなど設備の点検費や下水道管の修繕費など、下水道施設に係る管理経費、及び酒匂川流域下水道事業の運営に伴って町が負担する維持管理負担金が含まれる。

公共下水道整備事業

汚水並びに雨水管の整備工事や、工事に必要な調査や設計委託など、下水道施設の整備事業に係る費用。

酒匂川流域下水道事業

二宮町を含む県西の10市町（小田原市、秦野市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、二宮町）から排出された汚水は、小田原市内に設置された処理場でまとめて浄化、放流している。

処理場等の整備と維持管理は神奈川県が行い、酒匂川流域下水道事業は施設の整備に伴い発生する費用を、上記の10市町が負担している。

町債償還元金

過去に借り入れた町債の返済に係る支出のうち、元金の返済に相当する分。

町債償還利子

過去に借り入れた町債の返済に係る支出のうち、利息の支払いに相当する分。

平成29年度下水道作品コンクール

入賞作品集

作文の部

ポスターの部

書道の部

公益財団法人 神奈川県下水道公社

はじめに

下水道は、家庭や工場などから流される汚れた水を処理場に集め、もとのきれいな水にして川や海に帰すことで、大切な自然環境を守っています。また、大雨の時には、道路などに降った雨水を川や海に運び、家や道路を浸水から守っています。このように下水道は、自然環境や私たちの暮らしを守る大切な役割を担っています。

近年、地球温暖化、集中豪雨、下水道資源の利活用など、これまでの下水道の取組みに加えて、益々その役割は大切なものとなっています。そこで、公益財団法人神奈川県下水道公社は、下水道の果たしている役割や重要性について、多くの方に知っていただき理解を深めていただくための様々な取組みを行っています。

この下水道作品コンクールは、相模川・酒匂川流域下水道につながっている市町の小学校を対象に作文・ポスター・書道の作品づくりを通して、下水道のことを知っていただくための取組みの一つです。この作品募集は、初めて下水道の勉強をする小学校4年生を対象に行っています。

今年度は、4,507点の素晴らしい作品の応募をいただきました。その中から、最優秀賞3点、優秀賞9点、入賞58点の合計70点を選考委員の皆様を選んでいただき、入賞作品集に紹介させていただいております。応募された作品を拝見させて頂き、様々な視点から下水道について大変よく勉強され、環境への優しい思いや環境を良くするための取組みをしたいという皆さんの気持ちが良くわかり、大変うれしく思いました。そして入賞作品からは、下水道について学んだこと、実際に見たり聞いたりしたときの感想や驚きが、より一層素直にそして力強く伝わってきました。

ここに数多くの作品の応募をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。また、担任の先生方、保護者の皆様、そして市町の担当者の方々、さらには審査をいただきました皆様方のご指導、ご協力に深く感謝いたします。

公益財団法人神奈川県下水道公社
理事長 藤井良一

下水道作品コンクール 入賞者一覧

ポスターの部

(入賞者数20人)

(敬称略)

最優秀賞(1)	松田町立松田小学校	永井愛都	18
優秀賞(3)	平塚市立機内小学校	門倉菜々香	19
	伊勢原市立大田小学校	富樫優斗	20
	大磯町立大磯小学校	金光春風	21

作文の部

(入賞者数10人)

(敬称略)

最優秀賞(1)	秦野市立鶴巻小学校	山口結子	6
優秀賞(3)	厚木市立荻野小学校	浅野心音	8
	開成町立開成小学校	遠藤陽世	9
	愛川町立中津第二小学校	鈴木琢真	10
入賞(6)	小田原市立豊川小学校	石内亜子	11
	小田原市立町田小学校	早野亜淑	12
	茅ヶ崎市立緑が浜小学校	渡邊宏生	13
	厚木市立上荻野小学校	三宮良太	14
	伊勢原市立比々多小学校	中川 栞	15
	開成町立開成小学校	片岡 慶	16

入賞(16)	小田原市立町田小学校	栗田明日凧	22
	小田原市立三の丸小学校	岡本性道	22
	小田原市立豊川小学校	美濃島圭汰	22
	小田原市立片浦小学校	高嶋ゆいか	22
	小田原市立定柄小学校	角屋菜々美	23
	小田原市立矢作小学校	若杉羽乃	23
	厚木市立鷺尾小学校	石川愛梨	23
	厚木市立緑ヶ丘小学校	成瀬 兜	23
	厚木市立南毛利小学校	青野 結衣	24
	厚木市立玉川小学校	末宗世成	24
	伊勢原市立伊勢原小学校	高田葵衣	24
	伊勢原市立高部屋小学校	脇本 夢大	24
	海老名市立杉本小学校	染谷 凧太郎	25
	座間市立旭小学校	竹内拓音	25
	大井町立相和小学校	内田裕貴	25
	愛川町立田代小学校	小野邊大翔	25

書道の部

(入賞者数 40人)

最優秀賞(1)	平塚市立楠内小学校	那々彩	27
優秀賞(3)	相模原市立二本松小学校	真明友	28
	藤沢市立鶴沼小学校	つばき	29
	大井町立大井小学校	凛采希	30
入賞(36)	相模原市立二本松小学校	真明友	31
	相模原市立橋本小学校	菜咲直	31
	平塚市立港小学校	真柚幸	31
	平塚市立港小学校	悠真千	31
	藤沢市立鶴沼小学校	輝雅羽	32
	小田原市立豊川小学校	乃大維	32
	小田原市立豊川小学校	咲響太	32
	小田原市立三の丸小学校	恋佑秋	32
	小田原市立雷水小学校	優子イ	32
	茅ヶ崎市立緑が浜小学校	み樹尋	33
	秦野市立未広小学校	奈紗	33
	秦野市立本町小学校	優渚	33
	厚木市立厚木小学校	かれん	34
	厚木市立清水小学校	美淳	34
	伊勢原市立桜台小学校	晴介	34
	伊勢原市立比々多小学校	太士ら	34
	海老名市立中新田小学校	愛美夏	35
	座間市立栗原小学校	友心	35
	座間市立栗原小学校	実儿	35
	座間市立座間小学校	あ友	35
	南足柄市立岡本小学校	優渚	36
	南足柄市立向田小学校	かれん	36
	南足柄市立岩原小学校	美淳	36
	綾瀬市立土棚小学校	晴介	36
	寒川町立旭小学校	太士ら	37
	大磯町立国府小学校	愛美夏	37
	大磯町立大磯小学校	友心	37
	大磯町立大磯小学校	実儿	37
	二宮町立一色小学校	あ友	38
	中井町立井ノ口小学校	優渚	38
	大井町立大井小学校	かれん	38
	大井町立大井小学校	美淳	38
	松田町立松田小学校	晴介	39
	山北町立川村小学校	太士ら	39
	開成町立開成小学校	愛美夏	39
	愛川町立中津第二小学校	友心	39

平成29年度下水道作品コンクール審査委員

(審査委員構成)

総括
 公益財団法人日本教育公務員弘済会
 神奈川支部
 支部長 伊藤博彦

作文
 元川崎市立小学校校長
 元川崎市小学校国語研究会会長

ポスター
 元横浜市小学校図画工作研究会長
 元大学教授／(現) 版画家

書道
 元横浜市立小学校教諭／(現) 書道家
 常任幹事 島田雅幸

齋藤菁芳
 (喜久恵)

公益財団法人日本教育公務員弘済会
 神奈川支部
 常任幹事 酒井宏

入賞
二宮町立一色小学校

にしやま みはる
西山 美晴



入賞
中井町立井ノ口小学校

やまうち じゅんのすけ
山内 淳之介



入賞
大井町立大井小学校

さくらい こうた
櫻井 航太



入賞
大井町立大井小学校

いしい さとし
石井 聖士



審査を終えて

今年度の下水道作品コンクールには、相模川、酒匂川流域市町の小学校4年生から作文104点、ポスター1,065点、書道3,338点、合計4,507点もの応募がありました。

小学校の社会科で学んでいる「地域の人々の生活」に関連した「廃棄物の処理」「廃棄物を資源として活用」について、下水道の視点からより関心を持てる学習展開を期待して行われているコンクールです。皆さんの作品からは、学校で先生方から指導を受け、真剣に作品に取り組んだり、下水処理が水資源を再生することについて深く考えたりした様子がうかがえます。審査の先生方が、作品を前にして何度もなる程の力作が集まりました。時間をかけ、心を込めて審査が行われました。

「作文」の審査の先生は、何日もかけて読み込んでいただきました。皆さんが下水道について教室の学習ばかりではなく、身近な生活に結びつけて感じていることや暮らしに生かしていることなどを自分の言葉で表現していることに感心させられました。

「ポスター」は、絵や図案がよく考えられて、下水道事業の大切さが伝わる作品に仕上げる努力が感じられました。下水道の大切さやそこで働く人々の願いを受け止めて、心を込めて表現した作品からは、皆さんの思いの深まりやポスターを見る人に感動を与えるものだと思います。

「書道」の部は、作品の数に毎年驚かされます。そして、素晴らしい作品が多く寄せられました。美しい線で力強く、のびのびと筆を運ぶ皆さんの様子が感じられました。作品を床一面に広げて眺めたり、机に並べて一点ずつ眺めたりして選考し、特に優れた作品を選ぶのに大変苦労したほど力作が多かったです。

この入賞作品集には、審査選考された先生方の講評も載せておりますので、ぜひお読みください。

皆さんは、コンクールに参加して、下水道についてたくさんのことを学び、私たちの健康な生活や生活環境の維持と向上に努力している人々や施設のこととあわせて、私たち自身の生活のあり方についても深く考える機会になったことと思います。私たちの生活にとって大切な下水道の役割を忘れないでください。

最後に、ご支援いただいたご家族の皆様、ご指導くださった先生方、一生懸命審査していただいた先生方、下水道作品コンクールの(公財)神奈川県下水道公社事務局の皆様には感謝と敬意を表します。

審査委員長
公益財団法人
日本教育公務員弘済会神奈川支部

支部長 伊藤博彦

下記要領にて募集を行いました。

平成29年度下水道作品コンクール募集要領

- 1 趣 旨 小学校4年生は、授業や社会見学などを通して大切な下水道の役割を学んでいます。そこで、下水道公社では下水道知識の普及と啓発を図るため、小学校4年生を対象に下水道に関する作文・ポスター・書道の作品募集を行います。
- 2 主 催 公益財団法人神奈川県下水道公社
- 3 協 力 神奈川県
相模川・酒匂川流域下水道事業連絡協議会（流域関連21市町）
- 4 作 品 (1) 作文の部
原 稿 原稿用紙 400字詰、3～4枚
応募数 一人1点まで
(2) ポスターの部
用 紙 画用紙4つ切 (540mm×380mm程度)
※下水道に関する標語を入れる。
応募数 一人1点まで
(3) 書道の部
用 紙 半紙版 (文字の数は4～6文字)
※下水道に関する言葉を記入する。
応募数 一人1点まで
*作品の応募は、3部門それぞれ一人1点までの応募可とします。
- 5 審査委員 公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部
- 6 賞 入賞作品は最優秀賞 (各1点)、優秀賞 (各3点)、入賞とし、表彰楯と副賞を贈呈します。
- 7 発 表 入賞者には、平成29年12月下旬に市町の下水道担当課から学校を通じて通知します。
- 8 表 彰 式 平成30年2月10日 (土) 厚木市文化会館において、表彰式を行います。
(入賞作品集も配布します。)
- 9 作品の扱い 応募作品は小学校から市役所または町役場の下水道担当課より下水道公社へ送られ、審査を行います。なお、入賞作品については、2年間下水道公社や市町の広報活動に使用します。公社ホームページ、入賞作品集、PR用品等に入賞者の学校名、氏名が入りますので了承の上、応募してください。
*審査終了後、全応募作品は返却しません。
- 10 連 絡 先 公益財団法人神奈川県下水道公社 総務部企画課
〒254-0014 平塚市四之宮四丁目19番1号
電話 0463(55)7438

『下水道 水が自然にかえる道』

—平成29年度 下水道推進標語—

平成29年度下水道作品コンクール応募状況

応募学校数	部門別応募数			総応募数
	作文の部	ポスターの部	書道の部	
166校	104点	1,065点	3,338点	4,507点

応募状況の推移（過去5年間）

年 度	部門別応募数			総応募数
	作文の部	ポスターの部	書道の部	
平成24年度	136点	1,398点	3,223点	4,757点
平成25年度	91点	793点	3,621点	4,505点
平成26年度	111点	932点	4,002点	5,045点
平成27年度	97点	781点	3,665点	4,543点
平成28年度	85点	750点	3,315点	4,150点